

結婚の栞 全

一名嫁と婿選び

高砂庵著



特200
741



* 0038473000 *

0038473-000

特200-741

結婚の栞

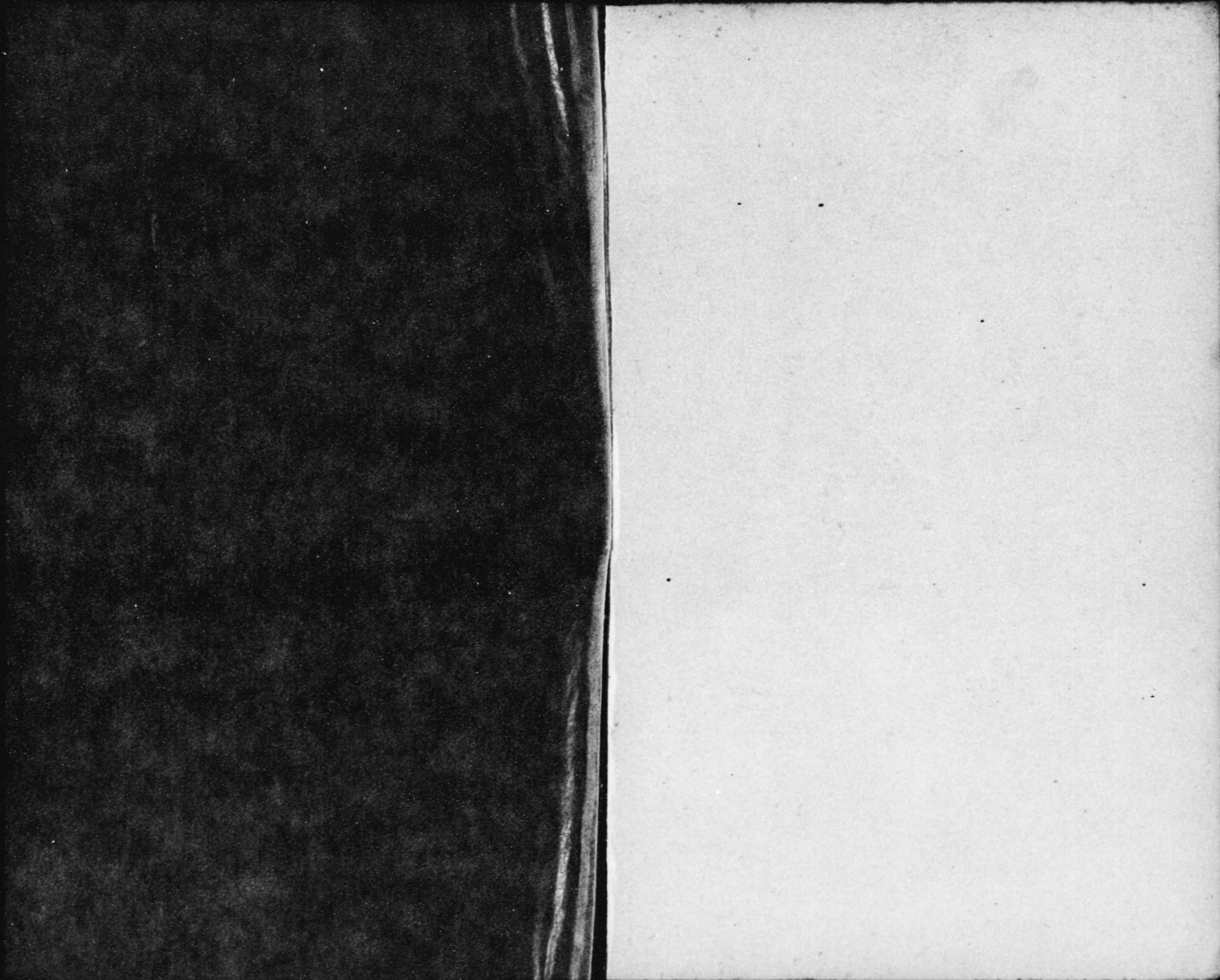
上原小左衛門・著

文光堂

昭和9

AGG

この著作物は、著作権者不明のため第67条の規定に基づき、平成12
けで文化庁長官の裁定を受け使用す



時200
741

結婚の葉全

一名『嫁と婿選び』



序

夫れ婚姻は人の一生一代の大典にして之が選擇の良否は皆將來に於ける幸不幸の岐るゝ所なれば其選擇の必要なるは言を俟ざるなり。著者は夙に萬邦無比の皇國の前途益々隆昌なる進展を憶ひ茲に此書を著す若しそれ航海に於ける燈臺の如く此書婚姻に於ける燈臺の一光たるを得ば著者の本懐なんぞ之に過ぎんや。

昭和九年一月吉日

著者誌

和歌

國を憶ふ

高砂庵

吾か國の富も強きも人皆の

力一つにまつ外どなき

四海浪靜にて國も治まる時つ風枝をならさぬ御代なれや
逢ひに相生の松こそめでたかりけれげにや仰ぎてもこと
も愚やかゝる世に住める民とて豊なる君の恵ぞありがた
き君の恵ぞありがたき

祝 新 婚

高 砂 庵

綺^キ 席^{セキ} 煌^{クワウ}々^々 華^{クワシヨクアラタナリ} 燭^{クワシヨクアラタナリ} 新^新

地^チ 柔^{ジュウ} 天^{テン} 健^{ケン} 叙^{ジョスエリニ} 彝^彝 倫^倫

賀^{ガス} 君^{キミ} 方^{マサニエテ} 得^{クワンシヨクノタノシミヲ} 關^關 雎^雎 樂^樂

琴^{キン} 瑟^{シツ} 和^{クワ} 調^{チヨウチキルバン} 契^契 萬^萬 春^春

獨 身 生 活 と 婚 姻

植物には雌雄の別が有ります。動物には男女の別が有ります。易學に於ては又陰陽と云へますが、是等は皆動物に於ける男女の異名で有ります。世の中は斯くの如く兩性に因て皆成立して居るのであります。即ち植物に於ける又動物に於けるが如く、兩性相倚り相離る可からざるものとして、天自然に賦與せられて居りますが、殊に人生は萬物の靈長として進化向上す可き靈魂を備ひて居るもので有ります。それ故に人生は獨身生活を以て天自然の眞理で有ると申人は有りますまひ。然るに西歐諸外國には、獨身生活者の多數有るのは何故で有りますまひ

是れは只今申迄でもなく、婚姻に付へての種々なる障碍が有るのであります。即ち婚姻を思ふ様に行ふことの出来ない爲めに、止む無く獨身生活を營む様になるので、誠に不自然のことで有りますが、著者曾て聞きませすのに、獨身の男子は夫妻同棲の男子よりも夭折するものが多いそうで有ります。是れは女神の守護の無ひ爲めで有りませう。即ち宇宙間の生物は皆兩性相倚つて生活す可き天賦が有るからて有ります。殊に人生は萬物の靈長として進歩發達す可きもので有りますに就へては、婚姻の選擇は誠に肝要のことに至るのは必然のことで有ります。

金言

コロバヌ先キノ杖

聞クハ一時聞カヌハ末代ノ恥

國家隆昌の基

一家の隆昌は一家の和合にあり國運の隆昌は國民の協力にあり

著者言

親は留意して子女の婚期を逸する勿れ

動植物にあれ、總て何物にも皆其時期の好悪早晚が有ります。況んや人生たるものには其婚期の良否の有るのは又自然のことと有ります。此の婚期を親たるものは、能く之に留意して婚姻を行はしむることは最も大切のことと有ります。兎角世の中には親として之等のことを等閑にする人が有ります、故に其子女の婚期を逸する様なことになりますが、親たる者又は之等に代る可き任務の有る者は、宜敷く之を等閑に付せず能く其婚期を誤らざる様留意せられて、將來子女の幸福を計ることこそ、誠に親たるものゝ義務で有り人の人たる道と有ります。

標準は………所望する所は………

兎角世間では善い嫁善い婿と云ふ。此事に付へて何を以て規準とするかと云ふ一定の標準がなく、只漠然たることを云ふて居られるのであります。善い嫁善い婿と云ふて所望して居るので有りますが、是を一言に申たならば、嫁とし婿として和合に將來能く夫妻圓滿に善く其家庭を治め、國家國民として盡忠報國の誠を致し、子孫の長久を計るものゝ謂ひに外ならなひので有りませう。故に之が當人及び其家庭の希望に叶ふ者でありましたならば、是こそ眞に理想的の善い嫁善い婿で有りませう。

金言

馬ニハ乗ツテ見ヨ人ニハ添フテ見ヨ

妻奢侈ナレバ夫榮ユルコト能ハズ

和歌

羨まる人の鏡となるばかり

良き縁こそ結べもろ人

高砂庵

縁談

三

が始まれば、世の人が直ぐに申のは、健康であるか、或は否と申す
が、即ち縁談には身体の健康に重きを置くので有ります。故に世間の
云ふ所では血統や、家系生れと云ふことを申すは、血統に於て何か
遺傳する悪疾が無ければ良いとか、家系としては何事か好ましからざ
る行爲が無ければよいとか、生れも知れない者でなければ良いとか、
又元より此の土地の者だとか、何んとか申すのも、要するに良い者
を得たひ、立派の血統立派の家柄の者を得たいのは、萬物の靈長たる
人生の自然の然らしむる事で御座いませう。

即ち遺傳性の悪疾や、好ましからぬ家系や、又生れ在所も不明の者を
嫌ふは如何にも左様で御座いませう。世の中には自分の(ブンノクト)
即ち(項部)を見ずして人の血統や、家系を笑ふ者が有ると申すは、
是は自分の事を棚に揚げて置へて、他人の血統や家系ばかり非難して
自分ばかりが立派の血統、立派の家系と自慢して居るので、自分の事
を他人に嘲笑されて居るのを知らないで、得々として居るので御座い
ませう。故に他人の血統や、家系を調ぶる前には、必ず先づ第一に自
己の血統や、家系を大に反省するの必要が御座いませう。世の廣きに
於ては自分は昔より何々公の後裔だとか、又何公の末孫だとか、名門
の末だとか云ふて、誠にも有らぬ系圖を作つて秘藏し得々として高慢

一三

の鼻を高くして居る人も有るそらで御座いますが、是等の事は甚だ笑ふ可きことで御座いませう。

金言

氏ヨリ育チ

健康ハ快樂ヲ生ジ快樂ハ健康ヲ生ズ

世ノ中ハ笑ツタリ笑レタリ

婚姻選擇ノ三大要訣

- 一、血統 即チ健不健ヲ知ル
- 一、精神 即チ智愚ヲ知ル
- 一、品性 即チ品行及ビ性質ヲ知ル

結婚相談所

社會事業として昨春以來、開設ノ東京市社會局ノ結婚相談所は、開所以來盛況を呈して居りますが、此相談所は今時の結婚難時代に手數料も僅に金壹圓と定めて有り、そして確實の調査法方に因て、市民の結婚相談に應じて居られます。其調査法方は直接本人より話を聞き戸籍謄本、身許証明書、履歴書、寫眞を添へた申込み書を提出せしめ、其上此相談所では第一に調査を方面委員に依頼し、更に警視廳、區役所と連絡を執つて確實の身許調査を行ふ、其相談に應ずる所で有ります。之れも時代の要求に應じた事業と

して誠に結構の事で有ります。

戀 愛

青春血に燃ゆる士女が、縁結びの神を憾みて、天國（パラダイス）に戀を結ぶとか云ふ、極端なることは、兩者が一時の燃ゆる思へを抑へ難くして、煩悶の極前途有爲の偉才を抱ひて、斯る悲慘の事を敢て決行するのは、人生の一大々典たる婚姻を深思熟考せずして、所謂輕舉盲動の愚たるを憐れまない者は御座いますまい。斯る行爲は兩親に對し不孝に、國家國民として誠に淺慮の行爲と云はねばなりません。故に戀愛燃ゆるが如き士女は、宜敷く冷靜なる頭腦を以て深思熟考を望む次第で有ります。

付言

兎角世間には青春期に憂鬱症に罹り、人を見るを嫌ひ、或は知己朋輩と喜戯談笑するを厭ふなどのものが有りまして、只何事にも面白からず、氣鬱となりますが之等の者は戀愛の爲めに憂鬱煩悶の極、遂に精神爽快ならずして、斯の如き症状を誘致せしものなれば、世の父母たるもの、善く留意して、斯る事なき様未前に慮る所あらんことを切に望む次第であります。

金言

急遽ノ結婚ハ好結果ヲ生ズルコト稀ナリ

急ニ結婚スレバ徐ニ悔ユルコト有ラン

和歌

敷島のやまと心を人とはじ

あさ日に香ふ山さくら花

結婚法（二種）

即ち婚姻の法に二種御座います。一を普通結婚法と云へ一を自由結婚法と申ます。普通結婚法は從來より我が國に於て一般に行はれつゝ有る方法で御座います。又自由結婚は元より有ましたが、古來より其數に於て普通結婚より少なく行はれて居りましたので有ります。故に自由結婚と命名された事も西洋との交通が始まつて以來のことと御座います。それで此の二種の内、何れの結婚法が良いか、悪いかと申ましたならば、何れが善く、何れが悪く、何れが善いと申されません。又自由結婚法に付ては、我が國の國法に因て制定して有りますが、それは普通

結婚の行はれ難い場合に行はれる法に成つて居るので御座います。故に大多數の我が國民に普通結婚が行はれて居るので有ます。我國々法の定むる所に依りますれば、男子は滿三十才以上、女子は滿二十五才以上の場合は兩親の承諾を得ずとも、自由結婚を成すも兩親及び家族たる者何等の異議を言ふ譯にも行かず、従つて兩親たる者異議を國法の裁判に問ふの用も御座いません。次ぎに普通結婚と自由結婚との將來家庭を作る上に於て、何れが宜敷きやと申ますれば、之も何れを可とし何れを不可とする事は申されません。只普通結婚に於ては兩親に於て婚姻の選擇を成し、自由結婚に於ては將來夫妻たる可き兩人にて定むる結婚法なるに依り、故に後日に至り不満足の事無きやと云ふ事

を多分に思はるゝのみで。是も其當不當は従つて未知の事で御座います。又普通結婚法に於ては、兩親自ら其の配偶者の撰定に當り、然して婚約の成立を見たもので御座います。故に結婚後の過失なく、一家和樂の生活は至極圓滿に行はる可き事と、世間一般の認むる所で御座います。之が即ち普通結婚法と自由結婚法の違ふ所で御座います。

金言

他人ニハ結婚ヲ勸メヨ、然レドモ汝自身ハ獨身者タレ

人ノ振り見テ我ガ振りナラセ

お医者様でも癒らぬ病

世の中は一寸先きが暗だからと云ふて、今は昔と違ひまして生命保険が普及されて居るのは、誠に結構の事で御座います。又昔から病は四百四病有るとか申ますが、之等の病を癒すにはお医者様に極まつて居りますが、お医者様でも癒らないのが御座います。即ち世間で申します戀の病は（お医者さんでも草津の湯でも戀の病は癒りませぬ）と申ますが、何人も小さい刺一ツさつても痛いとか、少しの病氣でもやれ薬だとか、お医者さんだとか、多額の財貨を費したり、又神様に御願ひをして、一日も早く癒る様に延命長壽を御願ひ申すのでは御座

いませんか、斯の如く自分の生命を大切に思ひ、一家を思ふて居るに係はらず、兎角世間には戀の病に取り付かれて、心中するとか、鉄道往生だとか、又(カルモチン)とか(猫イラズ)とか言ふ様な毒藥を呑んで黄泉の客となるは、誠に悲惨の極みで御座いませう。斯る忌む可き悲業を遂げるのは、何故で御座いませう。之を一言に申したならば、平素世に處する心の持ち方で、即ち精神で御座います。故に前途有爲の士女は能く冷靜に熟考せられて、斯かる病に取り付かれぬ様、最善の精神修養が必要の事であります。

金言

後悔先キニ立タズ

心ノ駒ニ手綱ユルスナ

誠の心

高砂庵

矢の根もて岩をも通ふす弓よりも

強きは人の誠なりけり

親が子を思ふの真心

焼け野のさゞす夜るの鶴、山野に棲む鳥でさいも、親が子を思ふの情の切なるを思ふので御座いませう。況や萬物の靈長たる人の親たるもの、其子を思ふ真心の程を察せられませう。將來人の父母となり、家庭を治め、國家の柱石となり、重任を双肩に擔ふべき前途有爲の士女が、近來頻々として噴火口の煙と消え、或は靈山の瀧シブキと消え、其他種々様々の方法に依つて、此悲惨の極み無き事を行はるゝ多くの者は、失戀の結果より此舉に至る者が多數であります。親たるもの、心の程を察せられませう。眞に焼け野のさゞす夜るの鶴を思ふ時、

子たるものゝ心の程は如何で御座いませう。眞に憐むべき所業では御座いますまいか。

明治天皇御製

老の坂こえぬる子をも幼しと

思ふや親の心なるらむ

相性の事

三四

に付きましては、昔も今も易者が九星の相性や、五行の相性がどうの
こうのと申して、縁組には能く之が鑑定や、選定をして貰ふ方が御座
います。是も結構の事と言はなければなりません。即ち良い縁を結
びたい良婚を得たいと言ふ事は何人も御同様に思ふ事で御座います。
故に之等の選定をするも、研究するも、善い事で御座います。世の中
には九星の相性が良い爲めに、夫婦の和合が良く、一家が和樂である
とか又或人は相性が悪いから、夫婦が不和合で、夫婦喧嘩が多いとか
良く聞くことで御座いますが、之等の事もあながち迷信とばかりにし

て取るに足らずとするにも及びません。要は夫婦の和合に一家の隆昌
に行くことを望む事で御座います。九星の相性の見方も、或は今日の
醫學上や、生理學から研究したならば、或は其合する所に歸するか
も知れません。然し易者の説やなどに従はなくとも、相性選定が適中
して良夫良妻が一堂に和合して暮せば、之が結構のことに歸着するの
では御座いますまいか、即ち其相性の選擇も前申された様に、目に見
耳に依て聞き、能く相互の意志に満足する様な、そして一家に適當す
る良縁を結ぶに越したことは御座いません。故に必ず婚姻は相性の良
い者を撰定す可きことが、誠に肝要のことで御座いませう。

三五

金言

美貌ハ其持主ノ沈黙スルニモ拘ハラズ頌讚セラル可シ

愛ラシキ容貌ハ持參金ノ一半ナリ

縁は異なるもの

と申しまして、縁は何時何所に有るか、御互に知れないもので有ります。殊に婚姻の縁に付いては何所に良縁あるか、出雲の大神ならぬ人の身には更に知れません。良夫を求めんとして良妻を得んと欲して、東奔西走人に聞き、知己に問ひ自ら尋ね近きより遠きに之が良縁を求むるは何人も同じこととございませう。近きには無いと思ふて、遠く西邊を尋ね、又東邊の遠地を尋ねしに、豈計らんや軒場續きの隣家に良縁ありとの類、世に其の數珍らしくはございませぬ、眞に縁は異なるものにして世は思ふ様なものではございませぬ。

金言

愛情ハ善キ生活ノ最大ナル基礎ナリ

愛ト尊敬トハ賣ルコト能ハズ

婚姻選擇の金科玉條

嫁選ひ婿選ひに付いての金科玉條は見聞が第一で有ります。故に此等のことを調査するには見聞に越したことは御座いません。金言にも百聞は一見に如かずと言ふ通り、殊に婚姻のことに付いては見聞を以て金科玉條とする次第で御座います。即ち見聞に依て其良否を知り其人に接して容貌風彩温容を知り耳に依て日常の行爲風評を知り得るが如く、例へば媒酌人が先方は美人なりと言ふに實際之を目撃したる時に醜人で有り、又身長高しと聞きたるに反つて倭小の者なりしの、例も能く有るが如く、故に目に依り、耳に依るは婚姻選ひの金科玉條とす

る所以で御座います。

金言

偕老同穴ノ契

婚姻ニハ苦痛有リ然レドモ獨身者ニハ快樂ナシ

婚姻調査ノ秘訣ハ見聞ニ不如

著者言

物種

は盗んでも人胤は盗まれんとか、古より申しますが、之は即ち身体は元より容貌言語動作総て其親たる人に似るの謂であります。それのみならず、其親の賢愚をも遺傳するもので有ります。元來夫妻は子孫の根元なれば世人は血統を選び、將來の幸福を計るのでありますが、植物の種でございましたならば、其眞の親なるか否やを判然と知れないが故に、物種と人胤の違ふ事を言ふた例でございます。

金言

親ニ似ヌ子ハ鬼子

女親ノ小サイノハ三代ノ瑕 (母ノ小サイノハ其子モ又小サイトノ謂ナリ)

蒔カヌ種ハ生イヌ

許嫁

古來封建時代に在りましては、此種のこと能く行はれましたが、世の變遷に従ひ之等のことが次第に少なくなつて來ました。殊に現今我が國の民法に於ては親と親との許嫁なることは、本人が意志がなければ認められないことになつて居りますが、此許嫁なることは未だ嫁する年頃即ち婚姻を行ふ年頃にならない故に、後年婚姻を行ふ可き兩家庭内の婚約でございます故に、前申します様に未だ嫁する齡に至らない若年の時に今後嫁として授受の内約のこと故、其本人に於ては將來先方の夫たる可き者を愛好するや否、又其家庭の人として適當し、從

つて先方の家庭の人等の意志に叶ふや否は、元より疑ひのことです。今日の様に世が開けて互に見合をして後に婚姻を行ふても尙且つ不満足の時に、兼てより許嫁などときめて有るのは如何にも其本人を束縛し、自由を抑制して置く様でございます。然し之が婚姻後一家圓滿の生活を營むことが出来たならば、誠に理想通りのこととございませう。然し世間には此様な結構に行かないことを見聞することが有ります。一例を申せば兼て許嫁の娘が愈々婚姻の期に近づいた、然し本人は先方を嫌ひ他にそれ以上に本人の愛好する者を得て、遂に家出して自己の好む者を夫とし妻となり俱に暮さんとせしも之又先に許嫁として有りし先方にも面目なく、又自己の両親に對しても申譯なき

心より遂に天國に其戀を結びし例がございます。故に之を一般より申ましたならば、今日開明の世に在りましては、可成斯くの如きことの無いのが良いこととございませう。

金言

戀ニ上下ノ差別ナシ

戀ト大名ハ仲間ヲ好マズ

和歌

世の中に絶えて櫻のなかりせば

春のこゝろはのどけからまし

血族間の配偶

即ち從兄弟姉妹の婚姻は醫學上の研究に於て、其の間に生まるゝ子女に悪影響を及ぼすもので有ると言ふ事は、總ての統計に依り實証されて居る事で御座います。即ち血族婚姻の間に生まるゝ其の子供は白痴、聾、啞等の不具者が多く生まるゝので有ります。故に斯る生理學上否定する事の出来ないもので御座いますれば、斯かる婚姻を行はぬが最も一家の爲め大にしては國家の爲め將來幸福の事で御座います。

金言

惡縁ハ惡運ノ源ナリ

親ハ子ヲ思ヒ子ハ親ヲ思フ

婚姻と迷信

婚姻に付へての迷信は世人は丙午年生れの何が故に兎や角と言ふのて有りますやは、其昔よりの傳説を迷信して言ふ事で、人智の進まない其昔は怪談噺などを本氣にして聞いて居りました時代にはいざ知らず苟も文化の今日に於ては取るに足らぬものでございます。御承知の通り今は昔と違ひ論より證據の世の中となりました、總て統計を作り世の不可思議は之が明になりました、未開の人の云ふ様なことは年一年と薄らぎ行く様になつて今は人信ずるに足らざる迷信と申すのは誠に此の上も無い結構のことでございます。

又七年毎に一回行はる、御柱祭年に婚禮をすれば、七年に一回必ず縁が替るなど、申ますが、之等も皆迷信でございます故に、宜敷く如斯迷信を思はず今日榮行く聖代の御世に於て、華燭の祝典を擧げらるゝことを望みます。

金言

迷ハンヨリハ問ヒ

子ヲ持チテ知ル親ノ恩

和歌

高砂庵

天地の寶の中のたからなる

親に勝れる寶こそなき

仲人即ち媒酌人（三種）

即ち道德的仲人と、營利的仲人と有ります。都會にも田舎にも營利的に此事を營み居る所謂媒介所も有ります。殊に此の種の人は都會に最も多く御座います。道德的の仲人は都會と言はず、何所にも至る所に有りますが、營利的の仲人は即ち此の事に従つて營業とするのが目的で、道德的の仲人は即ち知己朋輩に依て兩者の良否を擇び婚姻の成立をなすので有ります。昔より仲人は嘘八百とか申す通り、何分にも嘘が有りがちなもので御座います。そして道德的にやる人と營業的にやる人とは何れが良いか悪いかは、今申上げる迄もなく何れも婚姻

兩者の仲介をすることで誠に良い事で御座いますが、只最も注意すべきことは、右申ました如く嘘がなければ、後日にも満足のこと御座います。故に婚姻當事者たる兩家庭が能く見聞に依つて調査なさるところ、眞に必要中の必要なことで御座います、即ち見聞の要訣も此所で御座います。

婚姻の年齢

に付きましては、種々御座いますが可成は婦人より夫たる方が年長の方が一般家庭を治むる上に於ても、又思想の上に於ても宜敷いので御座います。そして其の年齢の差も餘り違ひが有りましては、又面白くも無いので御座います。故に先づ可成は夫たる人は婦人より五歳位迄で年長者たるが最も良いので御座いませう。然し廣い世の中にはかいつて婦人の方が年長にして家庭も圓滿に行はれて居る方も御座います。茲には其の一般的事を申し述べたので有ります。然し思想上又家庭の主としては夫の年長なのを望みます。

又婚姻の年齢の適否に付いては早婚晩婚何れもあまり望ましく御座いません。男子は二十五歳以上三十五歳位迄で、女子は二十歳以上二十五歳位迄で最も適當で御座います。之は將來父母として餘りに早婚で有るとか、又晩婚で有るとかに生まるゝ子供は甚だ弱いと云ふ醫學上、生理學上の確定たる統計の示す所であります。

婚姻の年齢に付きまして我が國民法の定むる所に依れば、男子は満十七歳以上、女子は満十五歳以上と規定されて有ります。以上は何れも醫學上、生理學上其の弊害の有る確固たる統計の示す所なれば、右の法規に遵うが最も望ましいことで御座います。

金 言

只金錢ノ爲メニ結婚スル人ヨリ惡キハナク只愛戀ノ爲メニ
結婚スルヨリ愚ナルハナシ

糠三合と畝三本

五八

昔から申ますが、糠三合と畝三本有つたなら婿に行くと言ふ様に、婿に行くと言ふことは至つて辛い事の様申しますが、是は婿に行く家庭と嫁になる家庭との兩者に於て調査が不十分で有つた失敗談に因るので有ります。何故かと申すれば婿に行く家庭では嫁になる家庭を尋ねてどうか良い嫁の所へ良い家庭の所へと、兩家庭に於て互に選びに選びの上それが良縁で有るからと云ふので出来た婚姻が後日破鏡の縁に終るのは何故でございませう。之には必ず何か其理由のあるのでございませう。即ち其理由は未だ目と耳との調べたる見聞の不行き

届きの爲めでございます。何故かと申すに兩者に於ては良夫となり良妻となり、良家庭を作り一家和合に暮さんとの思ひより婚姻が成立したのが、一朝の夢となるのは之は兩者の調べの不十分で有つたことを証明するものでございます。故に良く兩者たるもの斯くの如き不快の後日無き様慎重に見聞の調査をなさることを切に望むのであります

五九

金言

婿ノ交際ハ冬日ノ太陽ノ如シ

良妻ハ良夫ヲ作ル

見合

は都會と云はず田舎と云はず、世の開明に従つて行はるゝ事で縁談に付いては最も結構な事で御座います。兎角世の中の事、殊に縁談は嘘八百のかためと言ふが如き事故、一目の下に見合に依て兩者其の良否を選定するに良い方法で御座います。世の中には見合をせずして婚姻を行ふた爲めに後に破談の縁に終つた例が少なく有りません。故に良縁を結び行く末を思ふの兩者の必ず行ふべき事で御座います。

金言

百聞一見ニ如カズ

岡目八目

立てば芍薬坐れば牡丹

歩む姿は百合の花とか、又『丈高からず低からず、色白からず黒からず、髪は烏の濡羽色』とか窈窕たる美人を形容申しますが、之は誠に結構の評で御座います。又（立てば立白坐れば摺白、歩るく姿は家鴨に文庫）と申まして其の容姿を評しますが、自然の花を見ても、又庭園の花を見ても、美花は美花、醜花は醜花と萬人等しく申ので御座います。何人も美を好み、醜を嫌ふは人生たる自然の事で御座います。然し人生たる萬物の靈長たるものは、其の美醜の選擇をするのは之又以て萬物の靈長たる所以で御座いますから、敢て怪むに足らない事で

御座いませう。只人生は望んで必ず得られると得られざるとに有るのみで御座いませう。例へば菊花に置きましても、良い花の中の又其の良い菊の花と選びに選びましたならば、優等の品は幾つも無い様なものと同じく美を望みましても得られないのも道理の事で御座いませう。然し此所に人間は萬物の靈長たる一ツの違ふ所が有ませう。嬋妍たる美人必ずしも皆人生に必要なる智徳の品性を兼備して居るとは申されませまい。醜人と雖も智徳品性の美なる者も御座いませう。故に外觀は美ならずとも心は智徳品性の美を完備して居ると云ふ尊い素質を具備せられて居るもので御座いませう。故に要するに人の妻として將來家庭を治め能く一家和合に一家圓滿に和氣霽々たる(ホーム)を作る人

こそ眞の美人で御座いませう。

金言

健康ト智慧トハ人生ニ大幸福ナリ

夫ハ妻ノ天ナリ

馬士ニモ衣裳

長持箆笥と持參金

六六

昔から長持箆笥は嫁入りの重用道具として附屬のもので御座います。此の重要道具も其の家庭の貧富貴賤に依つて夫れ相當に之に入る可き衣類を初め諸品を調達して婚姻をするのは善い事に違ひは御座いません。然るに兎角世の中には長持箆笥の調度を増して之に入る、品々も又相當澤山に殊に嫁に有りましては嫁入り仕度だと言ふて若い、娘の時から着物の事のみ専念調達する事に思へを込めて居り、又家庭の親も之に同意して多分の衣類を調製して之を持參して嫁入りするの大手柄の様にして居らるゝので有ります。又是れ等の事も無理ならぬの

は世間一般の彼れも吾れもが皆競ひ競ふて此の饒山の物を造るので有りますが故に、之も又止む得ざる事で御座いませう。然しながら斯くの如き澤山の衣類を念に念を入れて造り嫁入りするも之を一時に着用する譯にも行かず、去りとて何年も年月を過ぎては只今の様に流行の早く、又廢れの早い世の中に流行後れの立派の物も立派にも用ひられず誠に不經濟の事で御座います。又之を調達して多額の金を用ゆるのは家庭の不經濟は申迄でも御座いません。故に今日の如き流行の速にして又廢れ易きの世に有りましては、過分の衣類の持參は不必要の事で御座います。又衣類の替りに持參する風習が行はるゝ様になりました。此持參金も婚姻に就て行はるるも又結構の事で御座いませう。

六七

嫁とし婿として巨萬の持參金、又は巨萬の財産を持つて行く事は其の家庭に於て餘裕の有る事で御座いましたならば之も善い事で御座いませう。兎角世上に行はるゝ事は其の裏面に何か伏在した事が有ります斯くの如き其の伏在した事が無い持參金や財産の持參は、婚姻其の兩者に於て大に喜びで御座いませう。例ひ巨萬の持參金でなくとも其の持參金の裏面に何事か伏在して居たならば甚だ面白い事では御座いません。能く世間にも聞くが如く嫁や婿が多分の持參金をした爲めに其の家庭の嫁が嘯ア天下になつたとか、又或家庭では婿が多分の持參金した爲めに天狗鼻をして居るとか、世間の外聞の良く無い嘯が有るので御座いませう。故に持參金必ずしも悪いのでは御座いません。要

するに只今申ました様の事の無い限りは誠に結構な事で御座いませう

金 言

富妻ヲ迎へタル貧夫ハ主人ヲ持テルナリ妻ヲ持テルニ非ザル
ナリ

富妻ハ爭論ノ源因ナリ

和歌

人ごとにひとつのくせは有るものを

吾にはゆるせ敷島の道

良妻

古より青史を照し名を竹帛に垂るゝものは、皆良妻の内助に依らない者は有りません。故に良妻は七十年の豊年、悪妻は七十年の兇年と申ますが、妻を撰ぶは將來多幸の人となり或は不幸の人となり、一家の幸不幸皆是が撰擇の如何に因て子孫に至る迄で禍福榮衰に關する大切のことで御庭います。それ故に良妻を迎へて人の羨む賢夫と稱せられ良妻と敬せられ、芳名を後世に傳ふる者は皆良妻の内助で無い人は有りません。故に世の婚姻を望まると者は能く撰擇の過誤なからんことを望みます。

金言

良妻ハ黄金ノ價値有リ

其母ニ由リテ其娘ヲ察セヨ

搖籃ヲ動カス母ノ手ハヤガテ世界ヲ動カス

和歌

高砂庵

良妻賢夫の譽れ高き山内一豊氏を詠みて

山の内ひとり豊と羨まる

選べ世の人良き縁こそ

恐は御無心と一言の式

婚禮の式に於て親戚兩者の間に始めて言へ交はさるゝ言葉の内には、一方に於て今回は誠に恐は御無心を申しまして誠に有りがとう御座いましたと述べらるれば、之に應じて又一方の親戚者は今回は誠に不束者を遣しましたが、何分御教へくございました宜敷く御願ひ申すとか又今回は何も出来ない者を遣しましたが、何分宜敷く御願へ申すとか申しますが、此の一言が結構の言葉で御座います。此の兩者間に於て申述べられし恭敬の意と言葉には實に將來御互に平和に行く末頼母しき信頼と無上の真意が籠つて居るので御座います。故に婚姻祝への今

後に於ては夫妻は勿論一家は申に及ばず、親戚の方々はず必ず平和に相俱に俱に親睦に交際しなければ成らるので有ります。

金言

世ノ中ハ互ニ持チツ持タレツ

巳ノ欲セザル事ヲ人ニ施スコト勿レ

家風に従ひ

七六

三千世界を尋ねても又と無い花婿にせよ、三國一の花嫁御にせよ。恐は御無心を申た家庭に置きましては元より、其の嫁なり婿なりに老ては一家の家事は元より老の身に至つては、皆何事も之に任せ所謂老後の事は一切其の子、即ち嫁なり婿なりに何事もして貰はねば成りません故に嫁として又婿として實に責任の重へ事で御座いますから、能く其の舅姑を大切にし、未來一切の幸福を願はねばなりません。嫁とし婿たる者も必ず此の家庭を平和に圓滿にそして廣く社會の手本となる立派の家庭を作る事を望みたいので御座います。それを未だ花嫁花婿

の時には其の家庭に入つたばかりで有りますから、従てその家風や人情も知らないのは無理の無いので有ります故に古來より郷に入りては郷に従ひ家庭に入つては其家風に従ひと云ふ様に其の村の人となつては其の郷の風に又其の家庭の人となりましては、其の家風を學んで爲さなくては成りません。兎角其の郷に入つても郷に従はないと云ふ様な事では面白くないのです。例へば其の地の言葉を學べば良いに只自分のみが本來出生地の言葉を使つて縁付いた先きで其の言葉を用ひて得々として居るなどは甚だ見とも無いと同じ事に、家庭に於ても其の家風に染まらねば誠に其の家庭への融和のまずいのは勿論の事で御座います。故に之を一家に申しましたならば一家の家庭は春日の如く

七七

和氣霽々として暮す事に心掛けるが最も結構のこととございませう。殊に古來より聖賢の教へにも女は三界に家無しと申して嫁しては其の家庭を以て一生を貞節に務めよと訓へて有ります。

金言

顔ハ心ノ指標ナリ

家貧ニシテ良妻ヲ思ヒ國乱レテ良相ヲ思フ

小姑獨りは鬼八人

と角の無いのに昔から世間で小姑鬼八人などと申ますが、兎角花嫁花婿の爲めには邪魔の様に申されますが、最初に嫁や婿を貰ふ時に善く之が目の届かなかつたので有ります。つまり彼の嫁が自分の家庭に適するか、又婿にせよ自分の家庭に適するや否、良く貰はぬ前に家庭に於て十分選定の上に貰ふべきもので有るので御座へます。そして良く自家の意志に適合して居るものや、又相性としても一度見たばかりでどうか二度と見るもいやだなどと云ふ様な嫁や婿で有るかどうか見聞に依り善く調ぶ可きもので御座いますに折角種々と祝の經費や心をつ

くして貰つた花嫁花婿も小姑と仲の好く無いなどは家庭としては不快に又外聞が悪く爲めに其家庭の品位に關する事で御坐います。兎角世の中の事は何事も思ふ様に満足に行くものでも御座いません。故に互に相譲り相思ひ合つて所謂（己の身を摘みて後人の痛さを知る）様にして一家の和合に勉め合ふこそ、眞に立派な家庭だと言ふので御座いませう。世の中は総て忍耐に依て互に相譲り平和に行くのです。それを互に自由勝手や氣髓氣儘にのみ事として居たならば、平和や一家和合の家庭は出来る事の無いのは明瞭の事で御座いませう。故に金言にも（家内の不和は貧乏神の巢窟）と申ます。

金言

兄弟ハ兩手ノ如シ

成ラヌ堪忍スルガ堪忍

古歌

堪忍のなる堪忍は誰もする

ならぬ堪忍するが堪忍

遺傳性の疾病

病に依つては只今申上げる迄でも無く、遺傳性の病氣が數々有るので御座います。今の世の中では醫學が進歩して居りますから、是等の病名や病根が精細に調べて發表されて居りますから、茲に改めて申上げませんが、遺傳する惡疾に因つては一代に限らず、其の遺傳性ある病根が子々孫々數代續き、爲めに一家の不幸一家の不運遂に廢滅に終るのが世間しばしば見聞するので御座います。故に婚姻に付いては。精細なる調べをして、子々孫々迄での幸福を計られんことを切に望みます。

金言

念ニハ念ヲ入レヨ

遠キ慮リ有ルモノハ近キニ憂ナシ

撰夫撰妻の如何は將來の成功否に係はることと有ります。即ち

夫の成功は

夫妻の意志相合ふもの即ち相性の良きもの、夫妻の意志の相互に合ふは、即ち夫の成功の基にして、妻は夫を助け、夫は妻を相愛するを以て、家庭は常に春日の如く、身は兩体なれども心は一心なればなり。家庭の圓滿なるもの、即ち萬事圓滿にして始めて事何事もなる。殊に一家の繁榮は圓滿なる家庭に於て世の好模範たり。故に斯かる家庭にして夫の成功を得るは故無きに非ざるなり。

貞操なる妻を有するもの、即ち山内一豊氏夫妻に於けるが如き、貞操なる妻を有するならんには、夫の成功期せずして疑ひなし、求む可き

は貞操なる妻に有り。

健康なる夫を有するもの、夫如何に健康なりとも、妻健康ならざれば夫成功を望むと雖も之を得る難し、故に健康なる妻は能く夫を内助し成功は之が爲めに達し得ればなり。

常識の妻を有するもの、即ち常識を有する良妻賢母は、之即ち人の妻たるもの、最善の徳行にして、世の模範と云はずして何んぞや、夫を敬する妻を有するもの、妻にして夫を敬せざる如き、不貞操の妻たらんには夫は如何に成功を望みて之を夢想するも、只架空の樓閣のみ。眞に夫を敬する妻にして始めて夫たるもの成功を得べきなり。

金言

玉磨カザレバ光ナシ人學バザレバ智識ナシ

夫の不成功は

八八

夫妻の意志の相合はざるもの、即ち相性の悪しきもの夫妻の意志相合ふて始めて家内の圓滿に一致の行動をなし、一家の幸福も之が爲めに得るものなれば、夫妻の意志を以て其第一に重きを置く所以なり。家庭の圓滿ならざるもの、家庭の圓滿は家庭としての第一に希望する所なり。然るに家庭圓滿ならずして互に犬と猿との心を以て日常に對せば如何に夫は成功を望むも、恰も木に縁りて魚を求むるに等故に人の妻たるもの常に顧る所なかる可からず。

不貞操の妻を有するもの、女子は嫁しては貞操を以て第一の美德となす、然るに人の妻となりて不貞操ならんには、更に妻としての徳行に非ず、又將來家政を治むるの主婦たるを得ず、憎む可きは之の不貞操の妻たるをや。

非常識の妻を有するもの、即ち常識に非ざるものは是を教導するも得ず。然れば夫を成功し、夫又成功を望むも之を得ず、言はゞ無識の妻と等しきのみ。

夫を敬せざる妻を有するもの、即ち夫を輕蔑し、夫を信賴せず。我が思ふに任せて是非を問はず、之を敢行する妻を有するものは、例へ成功を望むとも得べからざるなり。

金言

結婚ハ易ク家政ハ難シ

妻ヲ賤ムハ己ヲ賤ムナリ

妻の成功は

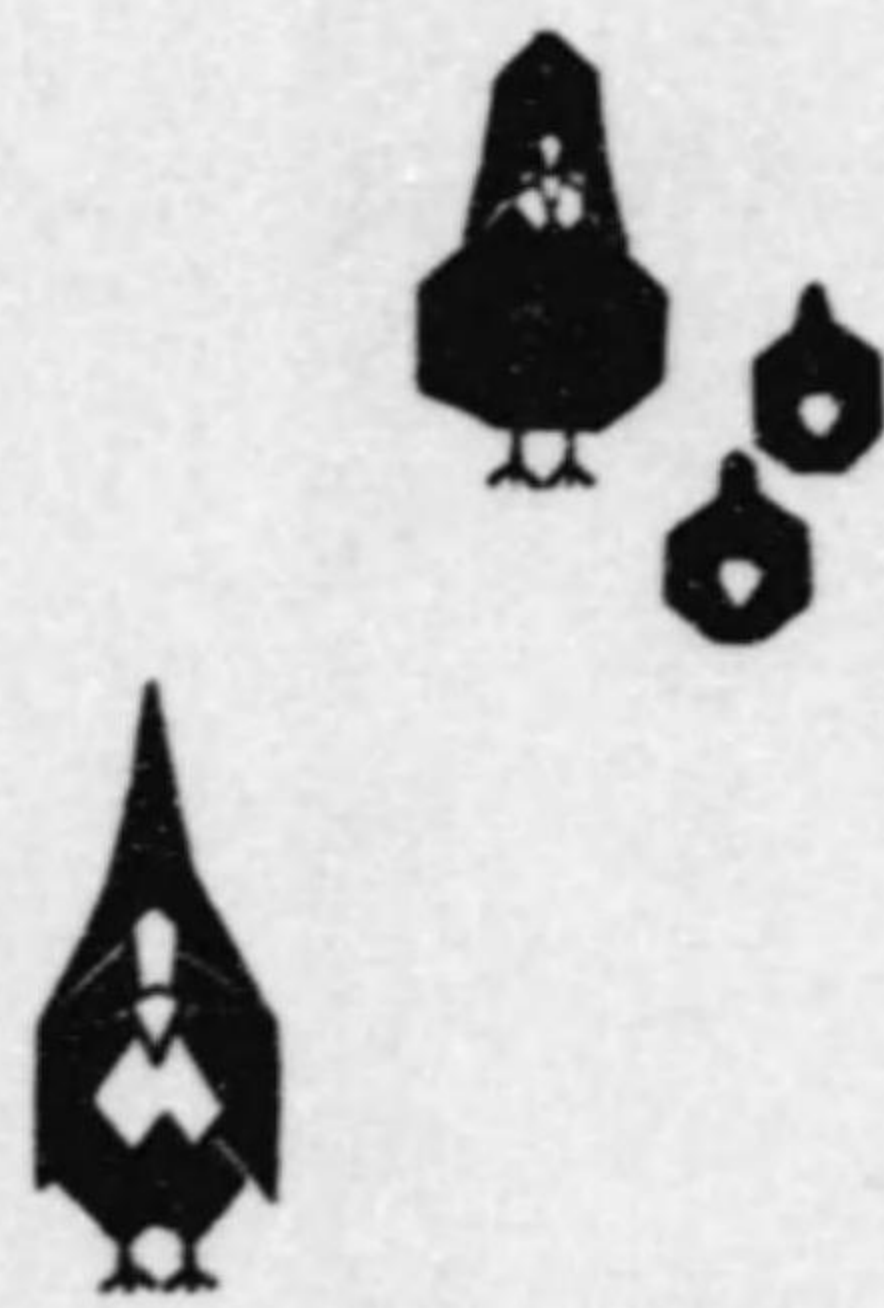
夫妻の意志の相合ふもの、即ち相性の良きもの能く夫妻の意志相投合して、協力一致、何事も一家の爲めに盡力する妻は、必ず成功を達するなり。

家庭の圓滿なるもの、常に平和にして和氣霽々たる一家の和合に、夫は妻を思ひ、妻は夫に信實なる妻は、必ず成功疑ひなからん。

良夫を有するもの、即ち妻を最愛無二の友となし、妻を信頼する夫を有する妻は、成功を願はずとも得べきなり。

健康の妻を有するもの、即ち健康なる身体には健全なる精神を有す。例へ如何に博學卓識の才智を有するも、健康ならざるものは之を如何

んせん、故に健康なる夫を有する妻は、最も幸福なるものなり。
 常識の夫を有するもの、即ち世上一般の智識を有し、學術に道德に通
 達し之を實行し得るものは、妻を成功せしめ得るなり。
 妻を愛する夫を有するもの、即ち妻を愛するは、又必ず其妻を信賴す
 るが爲めなり。故に妻を愛するは其家庭の圓滿和氣霽々に治まりつゝ、
 有るの証にして、前途大に希望する家庭なればなり



金言

愚妻ハ無キニ不如

恥ヲ恥ト思ハザルモノハ恥ヲ知ラズ

妻の不成功は

九四

夫妻の意志の相合はざるもの、即ち相性の悪しきもの、夫妻の意志の相合はざるものは、常に夫妻の仲悪しく、何事も一致の心なき故に、家運の進展を阻害するものなれば、宜敷撰夫に留意す可きなり。家庭の圓滿ならざるもの、即ち常に家庭不和にして、夫は妻を思はず妻は夫を顧みず、互に得手勝手なる行動の爲めに寧日なく、一家の幸運も之が爲めに阻止し、前途の發展も望みなきものなり。不良の夫を有するもの、品行修まらず、家庭を顧みず氣隨氣儘の所業に肉林酒池に沈溺して、日も是足らざる遊里に迷ふ放蕩の夫を之を不良の夫とせずして何んぞや。

不健康の夫を有するもの、如何に才幹有る有識の夫も、病弱にして平素病床に呻吟して醫藥を之事として、日を徒消する憐む可き夫は、いかでか妻を成功せしむるを得んや。

非常識の夫を有するもの、常識に非ざる夫は、之即ち無能の夫と何んぞ異らんや。

妻を愛せざる夫を有するもの、夫妻偕老同穴の契を望みて將來を憶ひ一家平和に而して前途に希望を屬せし、夫も妻を愛せざる無頼の徒は如何でか妻の成功を願ひ一家の和合を思はざらん。故に妻の成功は不可能なるは期して明かならんや。

金言

無クテ七癖有ツテ四十八癖

人ノ口ニハ戸ハタテラレズ

姑婆ア様

栗の毛毬は見たばかりでも恐はそうで手も付けられないのは御承知の事、御座いませう。世間でそれを姑婆ア様と栗のイガは、煮ても焼いても喰はれないなどと申しますが、花嫁が姑になるので御座いますが故に、そう栗のイガの様にやだがられる事の無い譯では御座いませうか、嫁を貰へたいとて、家内中で探しに探し、どうか好い嫁を貰へたいくと、明ても暮ても此の事ばかりに心をつくして、金や腰辨當持ちで見付けに歩るいて、やつと見付けて貰つて良かつたと云ふに、其嫁からは栗の毛毬など、悪口を言はれ、憎まれるのは、抑もなぜで

御座いませう。嫁からは此の様に思はれるには、又姑婆アさんからも噫々憎ひ嫁だ、悪るい嫁だと思はれて居るのは極まつた事でせう。斯の如き嫁と姑婆アさんの心が合はず、犬と猿との仲の悪い様なのは、何が悪いのかと申しませすれば、嫁は嫁しては良妻となり、一家和合に善く暮したいの一念より縁付いたもので、又姑婆アさんとしてもどうか良い嫁を貰つて仲良く一家平和の（スキートホーム）に暮たいの、此の一念より尋ねにくく、探しにくくして恐は御無心を申たものを、此の様に仲の悪るいには、兩人の仲は申に及ばず、家内全体の不和不經濟で御座いますが、之は要するに最初婚姻選びの金科玉條たる見聞の不足の致す所で御座いませう。古人は（姑は其の曾て嫁たりし時を記

隠せず）と申ました。又金言にも（憎い／＼の嫁の腹から可愛／＼子が生れる）と申す。



金言

良薬口ニ苦クシテ病ニ利アリ忠言耳ニ逆ヒドモ行ニ利アリ

○徳川家康公の遺訓

人の一生は重荷を負ひて遠き道を行くが如しいそぐ可からず不自由を常と思へば不足なし心に望み起らば困窮したる時の事を思へ出す可し堪忍は無事長久の基怒は敵と思へ勝つ事ばかり知りて負ることを知らざれば害其身に至る己を責めて他をせむるな及ばざるは過ぎたるより勝れり

良い息子と良い娘

兎角世の中には良い息子に嫁を貰らつてくれたら、思ふたより良く無い息子になつたとか、親不孝の息子に成つたとか、又良い娘に婿を貰つて呉れたら、思つたより良くない娘になつたとか、能く世の中の親が申ますが、之は要するに其家族と新夫婦との間に何かと意志の相通ぜざる、融和せざることの有るに違ひございません。言はば一家内の者が皆公平無私何事も互に相思ひ、相察し、子は親に孝、親は子を愛するの念を以て互に持ちつ持たれつ暮されたならば、平和に圓滿の家庭として暮して行かれるのでございませう。

又行の良く無い息子に嫁を貰つて呉たら、良い息子になつて人の手本となる様になつたとか申ますが、是等は其妻君との意志の相合ふ、即ち相性の良いのは勿論のこと、殊に内助の功に依るもので有ります。又平素家庭に於て良くも無いものだなどと、常に言ふて居られた娘に婿を貰つて呉たら思つたより良い娘になつて、家庭も圓滿に治まり、そして成す事も思ふ様に申ぶん無く、何事も行はれる様になつたなどの例が能く有りますが、之等は皆夫妻の意志即ち相性が良いのは申迄でもなく、夫たる者の指導其宜敷きが爲めであります。故に世の親たるもの能く婚姻の撰擇に留意せられんことを望みます。

金言

父ノ恩ハ山ヨリモ高ク母ノ恩ハ海ヨリモ深シ

妻ハ夫ノ最善最悪ノ家財ナリ

和歌

けふのみと思ふて親につかへかし

定めなき世のあすなたのみぞ

人の鏡

忠孝の心つくしはからやまと

今も昔も人の鏡そ

高砂庵

内閣統計局調査

昭和七年度分調査

但シ内地ノ分

一、婚姻件数 五一五、二七〇件

人口千人ニ對スル割合 七、七七デア
ツテ前年ニ比較スルト實數ニ於テ一
八、六九六件割合ニ於テ〇、一七ヲ増
加シタ

一、離婚件数

五一、四三七件

人口千人ニ對スル割合ハ 〇、七八デア
アツテ前年ニ比較スルト實數ニ於テ
八二八件割合ニ於テ 〇、〇一ヲ増加
シタ

一、出生總數 二一八二、七四二人

平均一日ノ出生五四六七人デアツテ人口千人ニ對スル割合ハ三二、九二デアル之ヲ前年ニ比較スルト實數ニ於テ七九九五八人割合ニ於テ〇、七五ヲ増加ス

一、死産總數 一一九、五七九人

人口千人ニ對スル割合ハ一、八〇デアツテ之ヲ前年ニ比較スルト實數ニ於テ三千七十人割合ニ於テ〇、〇二ヲ増加ス

一、死亡總數 一一七五、三四四人

平均一日ノ死亡ハ三千二百十一人デアツテ前年ニ比較スルト六〇、五四七人ヲ減少シタ人口千ニ對スル割合ハ一七、七三デアツテ前年ヨリ一、二五ヲ減シタ

一、自然増加

出産死亡ノ差増即チ人口ノ自然増加ハ一〇〇七三九八人デ一日平均自然増加二千七百五十一人デアル昨年中ノ朝鮮、台灣、樺太、南洋群島、關東州、外國ニ於ケル内地人ノ婚姻、離婚、出生、死亡、死産ヲ加ヘタ人口動態ノ統計數字ハ左ノ如シ

婚姻 五二一、〇六七

離婚 五一、九六八

出生 二、二三二、五九〇

死亡 一、二〇〇、六三五

以上

意外の事

一〇八

成立の婚姻がやゝもすれば、離婚、即ち結婚解消などがございますが抑も此の離婚の事に付きましては、種々なる原因もございませうが、何人も此のことを聞いたばかりで、甚だ不快の感に打たれませう。我が國は諸外國に比べても、此の離婚の數の多いと云ふのは、統計の証明する所でございますが、我が國が何故に斯くも不快の離婚が多いのございませう。

思ふに我が國の民情風俗の惡るい爲めでも無く、人情の輕薄の然らしむる所でもございますまい。之は婚姻選びの甚だ粗忽の所謂粗々つか

しい事にございませう。此の粗々かしい選びに依て、後來斯かる面白からざることに至りますが故に、婚姻兩者の最初に當りましては、兩家庭に於て善く綿密なる調査をせられて後日斯かる不快の無いことを切に望む次第でございます。

廣い世の中には離縁に當り、長持箆筒も返さないとか、又返しても其の衣類を瑕物にしたり、姿見の鏡を破壊して又と用達つことの出來ない様にして返すとか、何んとか種々様々の面白からざることが有りまして遂には國法の裁判に訴へて、其の黑白を相争ふなどと言ふ、聞くも實に忌まはしいことを見聞するのでございます。華燭の盛典に於て新郎新婦は將來鴛鴦の和するが如く、家庭としては和氣圓滿に、親戚

知己は勿論、平和の交際を互に相思ふて行ふた此祝宴の時を思へば、此の悲む可きことの茲に至りましたのは、之を一言に申すれば、調査の甚だ粗忽で有つたことを証明するのでございませう。



金言

前車ノ覆ルヲ見テ後車ノ戒メトナス

天ヲ怨ミズ人ヲトガメズ

明治天皇御歌

鬼神をなかするものは世の中の

人の心の誠なりけり

生者必滅會者定離

昔漢の玄宗皇帝は長生の術を道士に問へりとか、又秦の始皇帝は不老不死の薬を蓬萊に求めんと欲して道に得ずと云ふ様で、世の中は此様に自然の理として人の生命は限り有るものと極まつて居るので御座います。去りとして仙人の如く紫芝を食して長生して居ることも出来ず生者は必ず滅し、會ふた者は必ず相離ると云ふ事は、文化の今日に於ても自然の眞理と成つて居る通り、年々歳々月を經、日が過ぎて行く間に紅顔の美少年も、次第に白髮霜を戴く老の身となりますが。古人一休禪師が（門松や冥土の旅びの一里塚目出度くも有り目出度くもな

し」と詠ぜらしも眞に此の様で御座います。宇宙廣しとは申ましても生有るものは必ず滅び、又相會ふた者は必ず相離るのは、是を人生の如何んともする事が出来ません。故に浮世は思ふ様にならないのも道理のことで御座います。又世の中は月にひら雲花に風と云ふ様で、老少不定種々なる事情の爲めに、繼親となり繼子となる場合も御座います。何分にも世の中は思ふ様には行かないもので御座いますが、繼親だからとて繼子に對して、慈愛の少くない譯でなし、又繼子だからとて敢て其親に對して、邪見の有るのでも御座いますまい。論より証據に實の親子の間柄とても、親子の仲の惡るい例ひは能く御座いませう。又繼親子の仲が實の親子も及ばぬ慈愛の深い方も御座いませう。

然れば親子の間柄の良いも悪いも、皆兩者の意志に御座いませう。親たる人は子を愛育して後來の事は之に委ね、又子たる者は親に孝をつくすは、人の人たる道で御座います。それを平和に一家の和合に行はれざる事が御座いますとすれば、即ち何か此處に不可解の有ることで御座いませう。御互に人の人たる道を盡し合ふたならば、必ず不和不満の起る事のない譯で御座います。即ち先夫は先夫、後夫は後夫、先妻は先妻、後妻は後妻として、其の任務の有ることで、即ち先夫の後を嗣ぐ後夫にせよ、先妻の後を嗣ぐ可き後妻にせよ、其の一家を治め一家團欒に其の家庭の繁榮を思ふの道には別は御座いけません。然れば繼親にせよ、繼子にせよ、お互に人生として平和の家庭に、親は子を

愛育し、子は親に孝を盡して、相親み合ふこそ眞に人生は萬物の靈長たる所以として、禽獸と天地霄壤の差有るので御座いませう。



金言

糟糠ノ妻ハ堂ヨリ下ラズ

人ノ行ヘハ孝ヨリ大ナルハ無シ

菅公の御歌

心だに誠の道にかなひなば

祈らずとても神や守らん

先賢師表

高德 菅公ノ如ク

忠臣 嗚呼忠臣楠公ノ如ク

貞操 袈裟御前ノ如ク

清節 和氣清麿公ノ如ク

才學 紫式部姫ノ如ク

濟世 二宮尊徳翁ノ如ク

名媛 山内一豊氏夫人ノ如ク

博學 小野小町姫ノ如ク

卓識 清少納言ノ如ク

黄道吉日を撰ぶ

は何事も始めが善ければ終りが善いと言ふ様に、初めが悪ければ必ず終りが又悪い様なものです。殊に婚姻などの祝典を擧げんには、心から此吉日を選び、一世一代の華燭の盛典を行ふて、行く末の幸福を願ふのは、殊に結構のことと有ります。故に古來より上は至尊の皇室より、下は萬民に至る迄で皆吉日を選ぶのであります。



金言

人生ハ大夢ノ如シ

人生ハ白駒ノ隙ヲ過グルガ如シ

和歌

難波津にさくや木の華冬こもり

今は春べとさくやこのはな

謠曲

嫁盃の時

所は高砂の。所は高砂の。尾上の松も年ふりて。老の波も寄りくるや
木の下蔭の落葉かくなるまで命ながらへて。猶いつまでか生の松。そ
れも久しき。名所かなそれも久しき名所かな。

婿盃の時

四海浪静にて。國も治まる時つ風。枝をならさぬ御代なれや。逢ひに
相生の。松こそめでたかりけれ。げにや仰ぎても。ことも愚やかゝる
世に住める民とて豊なる。君の恵ぞ。ありがたき君の恵ぞありがたき

親子盃

庭の砂は金銀のく。むを連れて敷妙の。五百重の錦や瑠璃の扉。碑
渠の行桁瑪瑙の橋池の汀の鶴龜は。蓬萊山もよそならず。君の恵みぞ
ありがたき。君の恵みぞありがたき。

婿門入り

高砂や。此浦船に帆をあげて。此浦船に帆をあげて。月もろともに出
で汐の。波の淡路の島影や。遠く鳴尾の沖すぎてはや住の江に。着き
にけりはや住の江に着きにけり。

兄弟盃

真なり松の葉の散り失せずして色は猶まささきの葛ながき世の。喩なり

ける常盤木の中にも名は高砂の。未代のためしにも相生の松ぞめでた
き。



餞

富者は寶を以て餞となし、貴人は善言を以て餞となすと。著者は何を以て餞となさんや。即ち蘭陵の美酒なるか、錦の着物か、帶なるか、將又（シルクハット）か、黄金の寶なるか、否々、斯る贅澤の一時品に非ず、不如、此の書を以て餞となし、新郎新婦の琴瑟相和して、鴛鴦の和するが如く、齡鶴龜の如く、老ては高砂の老媪老夫の如く、將來圓滿なる家庭に、偕老同穴の契り有らんことを、之祝ふのみ。



華燭の式典

婚姻の成立と共に古來より、黄道吉日を選び、是が式典を行はるゝので御座いますが、世の變遷に依て近來神前式、佛前式、教會式、其他何々式と種々ありますが、何れも善いことで有りますが、我が國の如き古來より神の御末たる萬邦無比の神國に於ては、殊に神宮の神前に行はるゝのは結構のことで御座います。然し必ずしも神宮の神前に非ずとも、各家庭の神前に於て行はるれば、之又結構のことで御座います。要は即ち神前に於て夫妻の約束を誓ひ、將來の幸福を願ひ、一家和合に繁榮を祈願し、合せて今後の晴の夫妻たるの式で御座いますが

只今申上げました様に、神宮に於て擧式の場合は、其式料に依て神前に行はるゝ式の莊嚴と否やとの別が御座います。而して其式料も大概四五種に分つて居りますが、要するに婚姻者を始め親戚知己の參列者が心から嚴に將來の壽を思へ、尙此式に參列者の和氣靄々たる眞に平和の交際に、眞に圓滿の親戚知己たるを願ふので御座います。又古來より多く謠曲を唱せらるゝも、要するに婚姻を壽ての事で御座います故に此式に列せられたる人々は、此眞に意義有る御目出度い式の嚴肅で有りました、其當時の様な心持ちを以て、今後新夫妻を始め、親戚知己の方々も俱に俱に世に處して行かれたならば、決して不和不満の有る可きことは御座います。

和歌

わが國はあまてる神の末なれば

日の本としもいふにぞありける

新婚の披露

一三〇

前には華燭の式典として申しましたが、之は只に夫妻新婚の式のみを申上げましたので有りますが、新婚披露として親戚を始め、知己朋輩を招ひて、新婚披露の祝宴を致すのは、世の東西古今を問はず皆同じ様で御座いますが、先きに申上げましたのは、式は別に式として申たので有りますが、多くの場合は式を行へ終ると俱に、其の場に於て披露の宴を行ふのが普通で御座います。故に之を申ますれば、華燭の盛典と申まして、其の御祝へをするので、之は貴賤貧富の別は無く祝賀の宴を開いて、將來新夫妻としての社會に出ずる第一の御披露式で御

座います。



一三一

金言

天ヲ樂ミ命ヲ知ル

誠ハ天ノ道ナリ之ヲ誠ニスルハ人ノ道ナリ

初旅

新婚旅行は近來花嫁花婿の必ず行ふべき様になりましたが、此晴の新婚旅行も西洋との國交につれて、西洋に倣ふて行ふ様になりました。然し何人も其居住の地に依り、海邊に或は山間の温泉に旅行することも結構のことで御座います。又大都會に住居せらるゝ即ち都人士は各々好む所の閑靜の地を選んで旅行せらるゝも、又至極良いことで御座います。要するに婚姻に付いての種々なる精神の疲勞を快癒し、合せて今後社會に處し、且つ新家庭を築くべき方途を靜養の内に定むべきことは最も望ましいことで御座います。

金言

妻ハ天ノ特別ナル賜ナリ

夫ハ妻ノ天ナリ

和歌

高砂庵

菅公の高徳を詠みて

天の下のこるはじなく菅原の

梅のかほりは千代萬世に

親しき仲にも禮儀有り

夫妻如何に親しきとも、夫は妻を愛し、妻は夫を敬ひ、お互に愛敬の念を忘れてはなりません。古今東西世の義範となり、世の鏡と稱せらるる賢夫良妻は、此の念を以て心とし、能く夫に仕へ、夫は妻を愛し従て其の子孫も之れに倣ふて、其美德を後世に輝したる人が少なくは有りません。兎角夫妻の間柄は親しく心安さが爲め、風波の起き安いもので御座いますが、此の親しき仲にも禮儀有りと言ふことを常に心に銘じて居れば、決して風波の起ることは御座いません。教育御勅語の中にも夫婦相和し恭儉已を持しと御座います。

金言

有徳ナル婦人ハ良人ノ王冠ナリ

家族團欒ノ快樂ニ優ルモノナシ

夫婦は一心兩體

と申しますが、即ち心は一ツで無ければなりません。夫の成功を希望し夫の事業に同意しなければ、夫たる者の成功は必ず出来るものでは御座いません。又婦たる者の心にも同意しなくては、やはり成功が出来ません。之は一家の和合一致の協力にして初めて成功の出来るもの故に、將來良妻を求め良夫を選ぶ必要茲に有るので御座います。古來よりの偉人傑士の大業を成し、名を後世に輝したる人は皆之等の人で御座います。殊に夫の成功は婦人の内助の力に依り、妻は夫の意志に従ふて初めて一家の（スキートホーム）を致すので御座います。故に夫妻

の意志の相合ふのは最も肝要のことであります。



金言

夫ニ才智有リ婦ニ忍耐力有ルハ家内安全ノ基ナリ

婦人無クンバ男子ハ胴無キ頭ノ如ク男子無クンバ婦人ハ頭無キ胴
ノ如シ

寶の中の其寶

世の中には色々の寶がございますが、其寶の中の寶とは夫婦の（カスガヒ）たる子寶と皆世人は異口同音に申す。古歌にも（白がねも黄金も玉もなにかせんまされる寶子にしかめやも）とございます通り、實に寶の中の其寶でございます。例へ黄金の山成す白壁殿堂に猗頓の富を有する人も、連城の玉を藏する者も、高位高官位人臣を極むる忠臣義士も、此子寶が無かつたならば、暗夜に燈火の無い様で、眞に寂寞たるものでございませう。嗚呼斯くの如き子寶も又異國の人も羨む我が皇國の將來柱石たる偉人傑士も、皆賢夫良妻に因て初めて發祥

するのでございませう。故に婚姻撰擇の必要及び子は寶の中の其實たる以所でございます。



金言

子ハ三界ノ首柳

子ハ夫婦ノ錠

婚姻後に於ける祝賀の筈

銀婚式とか、金婚式とか、昔は此様な名は無く、両者和樂の長命を祝へましたが、西歐との國交に従つて傳來したので有ります。古來より結婚後は（お前百迄でわしや九十九迄でともに白毛の生ゆる迄で）と申ますが、良妻とし良夫とし、一家和合に末永く壽ぐこそ御目出度い次第でございます。そして子孫の長久を望むは實に國家の泰平にして國運の隆昌なるは必定な事有ります。故に銀婚式は夫妻婚姻後二十五年目を祝し、金婚式は五十年目を祝する式で御座います。尙ほ長命にして七十五年目には（ダイヤモンド）婚式を擧げらるゝので有ります

斯る事は誠に人生の壽ぎとして、無上の御目出度い事で御座います。



金言

人ノ運命ハ棺ヲ蓋テ後定マル

人ハ一代名ハ末代

結婚の栞

一名『嫁と婿選び』 完

昭和九年二月十日印刷
昭和九年二月十五日發行

定價金壹圓



著者兼發行人 上原小左衛門

長野縣上田市常入町六百貳番地

印刷人 丸山作造

長野縣上田市袋町四五四二番地

印刷所 丸山活版所

長野縣上田市袋町四五四二番地

發行所 文光堂

長野縣上田市常入町六百貳番地

